

(注)「マダガスカル共和国月報」は、現地新聞報道を当館限りでまとめたものであり、当館として事実関係を確認したものではありません。記事中にマダガスカル政府の公式見解と異なる内容が見られる場合もあるため、予めご留意願います。

マダガスカル共和国月報（2018年9月）

主な出来事

【内政】

- 7日、ラジャオナリマンピアニナ大統領が、大統領選挙に立候補するため、憲法の規定に基づき辞任。
- 7日、ラチラカ元大統領等、候補者9名による大統領選挙の延期要求にかかる署名。
- 12日、ラジャオナリマンピアニナ前大統領とラクトゥヴァオ大統領代行の交代式を開催。
- 8月1日から9月6日の間、ペスト症例8件、そのうちペストによる死亡者2人を確認。

【外政】

- 5日－11日、ラマムラAU上級代表が来訪。
- 10日－21日、OIFが選挙人リストの監査のため来訪。
- 18日－25日、バティリ国連事務総長特別顧問が来訪。
- 24日、ラクトゥヴァオ大統領代行が第73回国連総会に出席。
- 12日－26日、IMFミッションが来訪し、経済成長率は5%である旨発表。
- 21日、EU監視団が来訪し、投票日には総勢100名が全土に配置予定。

【経済】

- マダガスカルはインド洋における最大の輸出国。
- マダガスカルの2018年の人間開発指数は0.519で188か国中161位。

【経済協力・その他の協力】

1 日本との関係

- 8日、第4回日本映画祭「Focus Cinema Japon 2018」を開催。
- 26日、昭和大学病院形成外科・土佐泰祥准教授による記者会見を開催。

2 諸外国との関係

- 2－5日、第3回中国・アフリカ協力フォーラム（FOCAC）首脳会合を開催。
- 27日、仏による都市計画にかかる覚書の署名。
- 28日、ロシアによる軍事協力にかかる合意議定書の署名。

【内政】

- ノルベール・ララ氏によるラジョリナ前暫定大統領の支持表明

1日、ノルベール・ララ（Norbert Lala RATSIRAHONANA）Avi 党党首は、アンタナナリボ市のホテルで記者会見を開き、ラジョリナ前暫定大統領の支持を表明した。（3日付ヌーベル紙）

- 大統領選挙候補者の行動規範にかかる宣言書

3日、マダガスカル和解協議会（CFM）事務所において、「平和的な大統領選挙実施のための候補者の良好で公正な行動規範にかかる宣言書」委員会の設置にかかる式典が開催

(注)「マダガスカル共和国月報」は、現地新聞報道を当館限りでまとめたものであり、当館として事実関係を確認したものではありません。記事中にマダガスカル政府の公式見解と異なる内容が見られる場合もあるため、予めご留意願いたします。

された。マカCFM委員長によると、この宣言書にかかる大統領選挙候補者36名による署名式典が、選挙キャンペーンが開始する10月8日までに開催される予定である由。(4日付当地各紙)

●ラチラカ元大統領による会合

ラチラカ元大統領は、アンタナナリボ市内の自宅において、2018年大統領選挙の候補者を集め、8月31日には4-5名、9月3日には16名の候補者が秘密裏に大統領選挙実施の延期を画策する会合を行った。(4日及び5日付当地各紙)

●ラチラカ元大統領のテレビ出演

5日夜、ラチラカ元大統領は、これまでの沈黙を破って当地テレビ局「TV Plus」の特別番組に出演し、大統領選挙実施の延期、暫定政権の設置を要求する発言をした。(6日及び7日付当地各紙)

●最高憲法院(HCC)に提出された3つの要求の棄却

5日、HCCは、8月29日提出のランジラムラサタ・スル・ノルベール大統領選挙候補による、ラジョリナ前暫定大統領の出馬資格無効にかかる要求、8月30日提出のマアヴィンビナ氏による、立候補が無効となった者の連名の8月22日のHCCの大統領選挙の立候補を無効とする決定に対する無効の要求、9月3日提出のラベアリス・サラ候補による、国民の権利の保護と法の遵守にかかる要求に対し、各々無効の決定を下した。(6日付当地各紙)

●新駐ロシア大使及び中国大使の任命

6日、大統領府閣議において、新駐ロシア大使にザフィライ前鉱山・石油担当大統領府付大臣、新駐中国大使にラザフィマンディンビ前公共事業大臣が任命された。(7日付当地各紙)

●ラジャオナリマンピアニナ大統領の辞任

7日、ラジャオナリマンピアニナ大統領が、辞任にかかる書簡を最高憲法院(HCC)に提出し、同日付で確認された旨のHCC決定が出た。また、大統領は同日夜、大統領府において、辞任にかかる演説の中で、5年間の統括及び憲法遵守の重要性を述べた。新しい大統領が就任までの期間、ラクトゥヴァオ上院議長が新大統領就任までの間大統領代行を務める。(8日付当地各紙)

●選挙の延期にかかる署名

7日、ラチラカ元大統領の自宅において、大統領選挙候補者9名、最高憲法院(HCC)

(注)「マダガスカル共和国月報」は、現地新聞報道を当館限りでまとめたものであり、当館として事実関係を確認したものではありません。記事中にマダガスカル政府の公式見解と異なる内容が見られる場合もあるため、予めご留意願いたします。

より無効を言い渡された立候補者10名及び国家再建活動団体HFIは、11月7日の大統領選挙実施につき、新たな政治合意、選挙の延期、憲法及び選挙関連法の改正を要求する署名を行った。(8日付当地各紙)

●ランジアナスルニアク国民議会議員によるラジョリナ前暫定大統領の支持表明

10日、シテニ・ランジアナスルニアク国民議会議員は、チュレールにおいて、ラジョリナ前暫定大統領の支持を表明した。(11日付ヌーベル紙及びシトワイヤン紙)

●ラザイマムンジ元大統領府特別顧問の判決

11日、公金横領等の罪で拘留されていたラザイマムンジ元大統領府特別顧問は、汚職対策局(PAC)の第1回目の判決により、証拠不十分で無罪となった。しかし、仮拘留は続いている。(12日付当地各紙)

●タベラ・ランジアマナンツァ候補による政令の無効要求の棄却

ランジアマナンツァ大統領選挙候補は、ライセエヌ(M. RALAISEHENO Guy Maxime)国民議会議員とともに、6月29日の選挙人招集にかかる政令に対する無効要求を国务院(コンセイユ・デタ)に提出した。国务院は、当初は4日に予定されていた同訴訟に関する判決を5日午後に延期し、更に9月11日に延期した後、最終的に要求を棄却する判決を下した。(12日付当地各紙)

●上院議長代行にアンジアンブルルナ上院議員を任命

11日、ラクトゥヴァオ大統領代行は、10日に自身がアンタナナリボ中心地のアンブイチュルイチャ宮殿(大統領府。ヤブルー宮殿と異なり、大統領の居住空間ではない)に執務室を構えた後、上院議長代行としてアンジアンブルルナ上院議員を任命した。(12日付当地各紙)

●ラジャオナリマンピアニナ前大統領とラクトゥヴァオ上院議長の交代式

12日、ヤブルー宮殿(大統領府)において、ラジャオナリマンピアニナ前大統領と大統領代行を務めるラクトゥヴァオ上院議長の交代式が行われた。(13日付当地各紙)

●選挙人リストに追加登録

12日、独立国家選挙委員会(CENI)は、選挙人リストを9,903,319名から10,280名を追加して、9,913,599名を登録したことを発表した。(13日付ヌーベル紙及びミディ紙)

●ラジョリナ前暫定大統領によるパリにおける講演

13日、ラジョリナ前暫定大統領は、仏のパリ政治学院(Sciences-Po)において、講演

(注)「マダガスカル共和国月報」は、現地新聞報道を当館限りでまとめたものであり、当館として事実関係を確認したものではありません。記事中にマダガスカル政府の公式見解と異なる内容が見られる場合もあるため、予めご留意願いたします。

を行い、多くの在仏マダガスカル人が参加した。(14日及び15日付当地各紙)

●民衆制裁にかかる報告

17日、国際連合難民高等弁務官事務所は、2016年7月1日から2018年8月31日の期間のマダガスカルにおける民衆制裁(Vindictive populaire)の調査報告として、民衆制裁108件、死亡者152名、負傷者61名と発表した。(18日付エクスプレス紙及びヌーベル紙等)

●ペストの流行

保健省によると、8月1日から9月6日の間、ペスト症例8件、そのうちペストによる死亡者2人が報告され、死亡者のうち一人は、アンバラヴォで、肺ペストによるもので、もう一人は、アンカズベで、腺ペストによるもの。(18日付エクスプレス紙及びデペッシュ紙他)

●防衛・治安部隊による大統領選挙候補者の安全保障

18日、ラスルフニリナ国防大臣は、防衛・治安部隊(FDS)が大統領選挙候補者36名に対する安全を保障する旨発表した。(19日付ミディ紙)

●ラジョリナ前暫定大統領の自伝

18日、ラジョリナ前暫定大統領は、「Par Amour de la Patrie」というタイトルの自伝を出版し、パリの書店における販売開始のイベントには同前暫定大統領も参加した。(19日付ヌーベル紙及び20日付ミディ紙)

●OHF党によるマハファリ前首相の支持表明

25日、アンタナナリボ市において、OHF党の党大会が開催され、同党はマハファリ前首相を支持することを表明した。(25日付ミディ紙他)

●ラヴァルマナナ元大統領とラクトゥヴァオ大統領代行の会談

22日、アンブイチュルイチャ宮殿(大統領府)において、ラヴァルマナナ元大統領とラクトゥヴァオ大統領代行が会談した由。同大統領代行は、同会談は、短時間の表敬訪問であったと語った。(24日付当地各紙)

●Fanorolahy党によるラヴァルマナナ元大統領の支持表明

29日、Fanorolahy党は、ラヴァルマナナ元大統領を支持する旨表明した。(10月1日付ミディ紙)

(注)「マダガスカル共和国月報」は、現地新聞報道を当館限りでまとめたものであり、当館として事実関係を確認したものではありません。記事中にマダガスカル政府の公式見解と異なる内容が見られる場合もあるため、予めご留意願いたします。

【外政】

●ラマムラAU上級代表の来訪

5日から11日まで、ラマムラAU上級代表がマダガスカルを来訪し、ラクトゥヴァオ大統領代行、首相等と会談した。(12日付当地各紙)

●仏語圏国際機関(OIF)による選挙人リストの監査

10日から21日まで、OIFがマダガスカルを来訪し、選挙人リストの監査を行い、同リストを承認した。(22日付当地各紙)

●バティリ国連事務総長特別顧問の来訪

18日から25日まで、バティリ国連事務総長特別顧問は、5月に引き続きマダガスカルを訪問し、ラクトゥヴァオ大統領代行、ンツァイ首相、最高憲法院(HCC)長官、独立国家選挙委員会(CENI)委員長、マダガスカル和解協議会(CFM)委員長等と会談した。(26日付当地各紙)

●ラジャオナリマンピアニナ前大統領の受賞

24日、ニューヨーク市において、ラジャオナリマンピアニナ前大統領が、ロンドンの雑誌「African Leadership」による、アフリカの経済開発に貢献した人物に送られる賞を受賞し、ラクトゥヴァオ大統領代行が代理で同賞を受け取った。(25日付当地各紙)

●ラクトゥヴァオ大統領代行の国連総会出席

24日、ラクトゥヴァオ大統領代行は、第73回国連総会に出席するためにニューヨークに到着し、27日に一般討論演説を行った。(28日付当地各紙)

●エパルス諸島に係る発言

26日、ニューヨーク市において、国連総会のサイドイベントとして、ラクトゥヴァオ大統領代行は、フランク・パリ・アフリカ仏大統領顧問と会談し、エパルス諸島につき言及したが、協議されることはなかった。(27日付エクスプレス紙)

●ラジョリナ前暫定大統領のガーナ及びセネガル訪問

20日、仏訪問を終えたラジョリナ前暫定大統領は、ガーナを訪問し、ナナ・アクフォ・アド・ガーナ大統領と会談した。22日には、セネガルを訪問し、マッキー・サル・セネガル大統領と会談した。(21日及び24日付当地各紙)

●IMFミッションの来訪

12日から26日まで、拡大融資ファシリティー(FEC)についてマダガスカル当局

(注)「マダガスカル共和国月報」は、現地新聞報道を当館限りでまとめたものであり、当館として事実関係を確認したものではありません。記事中にマダガスカル政府の公式見解と異なる内容が見られる場合もあるため、予めご留意願います。

と協議するため来訪しているマーシャル・ミルズ率いるIMFミッションは、26日、2018年の経済成長率は5%であり過去10年間で最高であることを発表した。(27日付当地各紙)

●EU監視団の来訪

EUは、2018年11月7日の大統領選挙のために選挙監視団を派遣し、21日に副団長及びアナリスト8名が来訪し、数日後に長期に亘る監視団40名、投票日の数日前に短期の監視団46名がマダガスカルに到着する予定である。投票日には、これに当地のEU加盟国、ノルウェー及びスイスの当地公館職員が加わり、総勢100名が全土に配置される予定。(10月1日付当地各紙)

【経済】

●インド洋で最大の輸出国

レユニオンのNGO団体Club Export Reunionの2017年の統計によると、インド洋における最大の輸出国はマダガスカルで、同地域の71.5%を占め、21.3百万ユーロにのぼることを発表した。(12日付ミディ紙)

●マダガスカルの2018年人間開発指数

14日、UNDPは、人間開発指数に関する2018年版報告書を発表し、マダガスカルは、同指数は0.512から0.519と改善したにもかかわらず、昨年に比べ3ランクを落とし、188か国中161位となった。(24日付ミディ紙)

●第11回インド洋経済展覧会の開催

26日から28日まで、アンタナナリボ市において第11回インド洋経済博覧会が開催された。(27日付ミディ紙)

【経済協力・その他の協力】

1 日本との関係

●第4回日本映画祭「Focus Cinema Japon 2018」の開催

8日、アンタナナリボ市のフランス文化センター(IFM)において、日本大使館主催による日本映画祭が開催され、映画3本が上映された。また、日本語クラブ「富士山クラブ」による日本文化紹介が行われた。(10日及び11日付当地各紙)

(注)「マダガスカル共和国月報」は、現地新聞報道を当館限りでまとめたものであり、当館として事実関係を確認したものではありません。記事中にマダガスカル政府の公式見解と異なる内容が見られる場合もあるため、予めご留意願いたします。

●昭和大学による医療協力

26日、日本国大使館において、ボランティア・ベースの医療協力として当国アンチラベ市にあるアベマリア病院において口唇口蓋裂患者の外科的治療活動を行った昭和大学病院形成外科・土佐泰祥准教授による当地報道関係者に対する記者会見が開催された。今年は、日本から16名がマダガスカルを訪れ、患者21名に対して治療を行い、2011年より通算で患者173名への治療が行われた。(25日及び27日付当地各紙)

2 諸外国・機関との関係

●世銀による包括的成長のための資金供与

8月30日、世銀は、政府の能力強化及び農村における経済的機会を与える支援のため、60百万米ドルを追加供与した。(3日付当地各紙)

●第3回中国・アフリカ協力フォーラム(FOCAC)首脳会合

2日から5日までのラジャオナリマンピアニナ大統領の第3回中国・アフリカ協力フォーラム(FOCAC)首脳会合等に参加した。マダガスカルと中国は、首都アンタナナリボ・中南部フィアナランツァ間の鉄道建設事業、北東部アンチラナナの港建設事業、トアマシナ空港の拡張及び近代化、フィアナランツァ・マナカラ(FCE)鉄道線の修復工事及び新車両の供与の4つの覚書に署名した。また、新規事業としてHuawei社による「スマート・シティ」事業が発表された。(3日-6日付当地各紙)

●ラジャオナリマンピアニナ大統領と習近平国家主席のバイ会談

5日、北京の中南海において、ラジャオナリマンピアニナ大統領は、習近平国家主席と会談し、両首脳は協議の中で、中国・マダガスカルの良好な関係について強調した。(6日付当地各紙)

●韓国による選挙にかかる資金供与

3日、独立国家選挙委員会(CENI)事務所において、韓国による選挙支援のための資金供与式典が開催された。韓国は、マダガスカル選挙サイクル支援計画(SACEM)の選挙資金のためのバスケットファンドに10万米ドルを供与した。(4日付当地各紙)

●韓国によるイベント開催

2日から5日まで、韓国週間として、韓国大使館主催による舞台、国祭日、ビジネスフォーラム、映画祭が開催された。(6日付当地各紙)

(注)「マダガスカル共和国月報」は、現地新聞報道を当館限りでまとめたものであり、当館として事実関係を確認したものではありません。記事中にマダガスカル政府の公式見解と異なる内容が見られる場合もあるため、予めご留意願いたします。

●FOCACフォローアップ：中国研究者の代表団の来訪

11日、マダガスカルを訪問中の中国研究者団体Chinese Academy of Agricultural Science (CAAS)の代表団は、農業・畜産大臣と会談した。同訪問は、中国・アフリカ協力フォーラム(FOCAC)における習近平国家主席が提唱した8つの農業開発の取り組みを受けて行われたもので、国立農村開発応用研究センター(FOFIFA)とノルウェー・マダガスカル共同畜産・農業研究センター(FIFAMANOR)との親好を深め、プロジェクトを進めることを目的としている。(12日付マラザ紙)

●中国による外務省への支援

17日、中国政府の支援による外務省における授乳スペース設置の落成式が、楊中国大使、ドゥヴ外務大臣及び公務・行政・労働・雇用・社会法改革大臣の出席の下開催された。同イニシアティブは、保健省による母親のための授乳にかかる啓発の一環である。(18日付マラザ紙)

●独による選挙にかかる資金供与

17日、独立国家選挙委員会(CENI)事務所において、独による選挙支援のための資金供与式典が開催された。独は、マダガスカル選挙サイクル支援計画(SACEM)の選挙資金のためのバスケットファンドに50万米ドルを供与した。(18日付当地各紙)

●中国によるイヴァト空港へのバイパス道路が完成間近

公共事業・インフラ大臣によると、6月より、イヴァト空港・ツアラサウチャを結ぶバイパス道路の工事が再開し、現在85%の達成率である由。同道路は、11kmで、1.800億アリアリ(約4.7百万ユーロ)の借款による事業で、中国港湾工程(CEEC社)が請け負っている。(19日付エクスプレス紙)

●中国によるメディア・サロン開催

19日、中国大使館は、メディア・サロンを開催し、楊中国大使は、先般行われた中国・アフリカ協力フォーラムについての概要及びこれまでの中国・マダガスカル協力について説明した。中国経済担当参事官によると、2017年の両国の貿易総額は12.3億米ドルであるが、これまでの貿易額は、アフリカ全体の0.7%の1千7百億米ドル程度、投資額は、0.7%の1千億米ドルであり、2%まで到達することが目標である由。(20日付当地各紙)

●南アによる選挙支援の表明

21日、アンタナナリボにおける式典の席で、南ア大使は、マダガスカル和解協議会(CFM)等が作成中の「平和的な大統領選挙実施のための候補者の良好で公正な行動規範に

(注)「マダガスカル共和国月報」は、現地新聞報道を当館限りでまとめたものであり、当館として事実関係を確認したものではありません。記事中にマダガスカル政府の公式見解と異なる内容が見られる場合もあるため、予めご留意願います。

かかる宣言書」に対する支援を表明した。(22日付当地各紙)

●EUによる支援額5億ユーロ

21日、ジロラモ(SEM. Giovanni Di Girolamo)新EU大使は、ラクトゥヴァオ大統領代行に信任状を捧呈し、EUによるこれまでのマダガスカル支援にかかる供与額が5億ユーロにのぼる旨語った。(22日付当地各紙)

●世銀による観光・農業分野の支援

世銀は、マダガスカルの経済開発にかかるPIC(Pole integre de croissance et corridors)プロジェクトの第2フェーズとして、700万米ドルを供与することを決定した。同プロジェクトは、ディアナ、アヌシ、アチム・アンジェファナ、サント・マリー地域の観光業及び農業の開発を対象としている。(22日付当地各紙)

●英による選挙にかかる資金供与

25日、独立国家選挙委員会(CENI)事務所において、英による選挙支援のための資金供与式典が開催された。英は、マダガスカル選挙サイクル支援計画(SACEM)の選挙資金のためのバスケットファンドに150万米ドルを供与した。(18日付当地各紙)

●中国による国道5号線の修復工事の進捗

公共事業・インフラ大臣は、8月16日に着工した北部アンビルベと北東部イハラナを結ぶ国道5号線の修復工事は、現在、35kmの整地が完了し、全行程で35か月間かかる旨説明した。地質の問題で、予想外の問題が発生し、更に技術的調査が必要である由。(24日付エクスプレス紙)

●印によるBNGRCへの支援

26日、アンタナナリボ市において、印による当地政府への支援として、米1,000トン及び150万米ドル相当の薬をマダガスカル国家災害危機管理局(BNGRC)を通して供与した。(27日付エクスプレス紙)

●仏による都市計画の支援

27日、フランス開発庁(AFD)とマダガスカル財政・予算省により、「大アンタナナリボの都市ガバナンス・プロジェクト(Guga)」にかかる覚書に署名された。同プロジェクトは総額500万ユーロで、第一段階として、アンタナナリボ市に都市計画事務所が開設される予定である。(28日付当地各紙)

(注)「マダガスカル共和国月報」は、現地新聞報道を当館限りでまとめたものであり、当館として事実関係を確認したものではありません。記事中にマダガスカル政府の公式見解と異なる内容が見られる場合もあるため、予めご留意願います。

●ロシアによる軍事協力にかかる合意議定書

28日、外務省において、ラスルフニリナ国防大臣は、ブルディンスクロシア将軍と、マダガスカル・ロシア間の軍事協力にかかる合意議定書に署名した。同議定書は、テロ及び海賊対策、また、平和維持の経験の共有及び専門家の育成が目的である。(29日付エクスプレス紙)